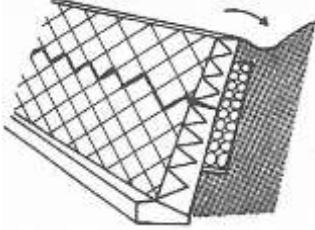
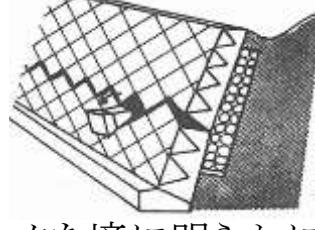
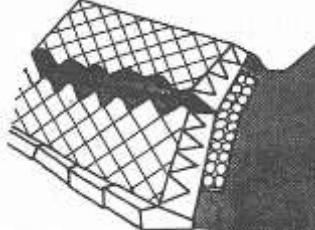


6-1. 折損(石積み)

判定マー29

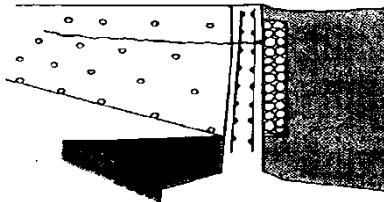
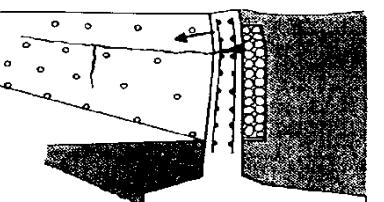
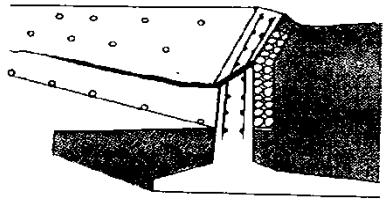
表3-15(2) 擁壁の変状の程度「大・中・小」の説明

	小被害	中被害	大被害
共通事項	変状を生じているが、その部分を補修することにより、その機能が回復するもの。	被災を受けており、補修又は部分的な改修によりその機能が回復するもの。	致命的な打撃を受け、その機能を失っているもの。また、復旧には全体の改修を要するもの。
擁壁の折損(石積み)	 クラックを境にわずかに後傾している。	 クラックを境に明らかに後傾しており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。	 基礎部を含めて完全に機能を失っている。

6-2. 折損(コンクリート)

判定マー29

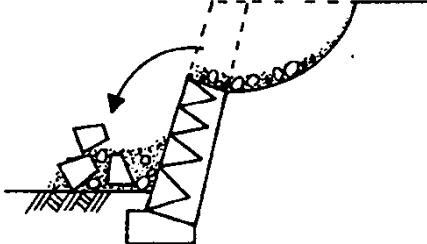
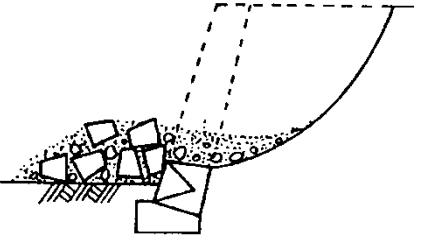
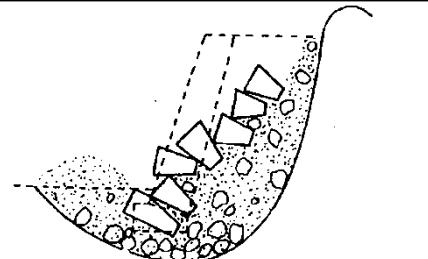
表3-15(2) 擁壁の変状の程度「大・中・小」の説明

	小被害	中被害	大被害
共通事項	変状を生じているが、その部分を補修することにより、その機能が回復するもの。	被災を受けており、補修又は部分的な改修によりその機能が回復するもの。	致命的な打撃を受け、その機能を失っているもの。また、復旧には全体の改修を要するもの。
擁壁の折損 (コンクリート)			
クラック	クラックを境に上部がわずかに前傾している。	クラックを境に折れて前傾している。	せん断破壊があり、後傾している。

7. 練積み擁壁の崩壊

判定マー29

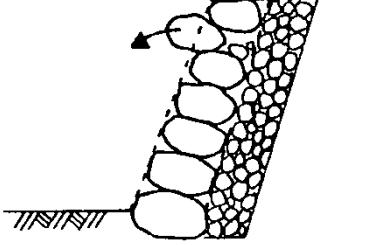
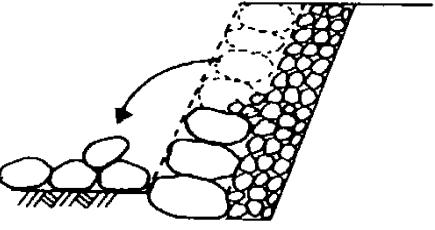
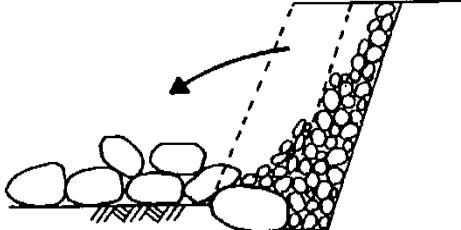
表3-15(2) 擁壁の変状の程度「大・中・小」の説明

	小被害	中被害	大被害
共通事項	変状を生じているが、その部分を補修することにより、その機能が回復するもの。	被災を受けており、補修又は部分的な改修によりその機能が回復するもの。	致命的な打撃を受け、その機能を失っているもの。また、復旧には全体の改修を要するもの。
崩壊	 上部1/2程度まで滑り崩壊を起こしている。	 基礎部を残して滑り崩壊している。	 基礎部を含めて全て崩壊している。機能を失っている。
			

7. 空石積擁壁の崩壊・崩落

判定マー29

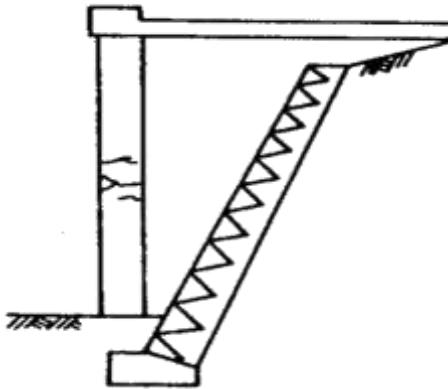
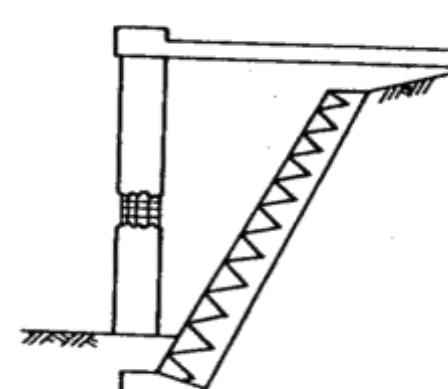
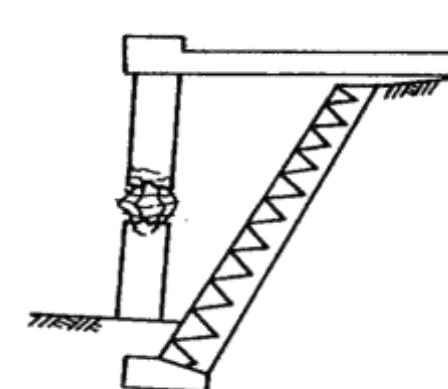
表3-15(2) 擁壁の変状の程度「大・中・小」の説明

	小被害	中被害	大被害
共通事項	変状を生じているが、その部分を補修することにより、その機能が回復するもの。	被災を受けており、補修又は部分的な改修によりその機能が回復するもの。	致命的な打撃を受け、その機能を失っているもの。また、復旧には全体の改修を要するもの。
空石積擁壁の崩壊 崩落	 積石がずれている。	 上段の部分が崩壊している	 全体が崩壊している。
			

8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷

判定マー30

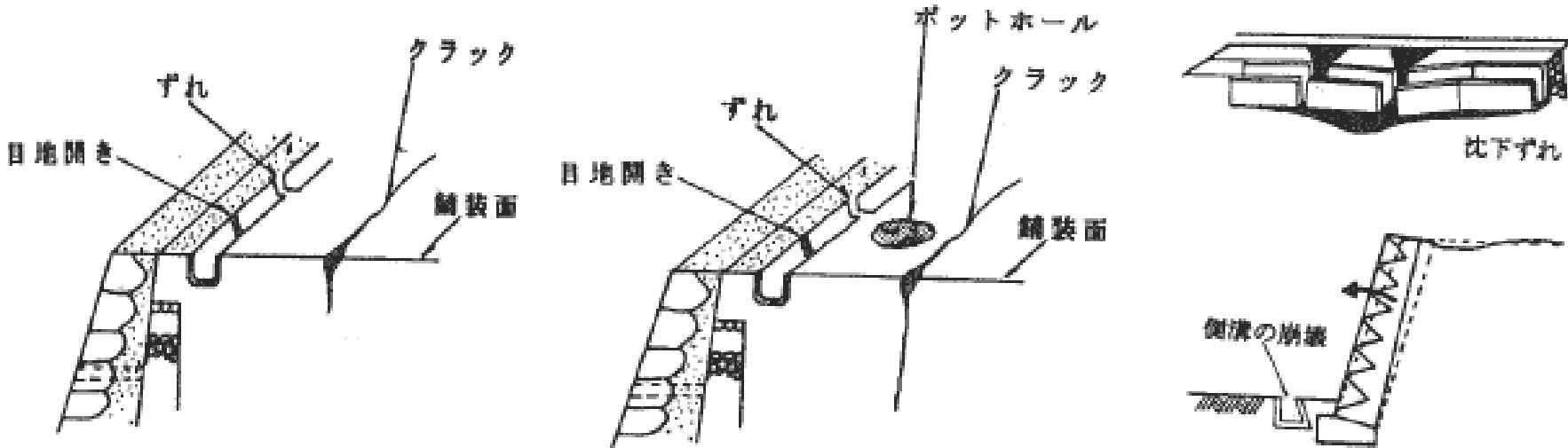
表3-15(3) 擁壁の変状の程度「大・中・小」の説明

	小被害	中被害	大被害
共通事項	変状を生じているが、その部分を補修することにより、その機能が回復するもの。	被災を受けており、補修又は部分的な改修によりその機能が回復するもの。	致命的な打撃を受け、その機能を失っているもの。また、復旧には全体の改修を要するもの。
張出し床版付擁壁の支柱の損傷	 支柱にひびが入っている。	 支柱のコンクリートが剥がれて鉄筋が露出している。	 支柱がせん断破壊して鉄筋が座屈している。機能を失い、下部の擁壁も崩壊のおそれがある。

9.基礎及び基礎地盤の被害



10 排水施設の変状



11.擁壁背面の水道管の破裂



>破裂して水が流出している

擁壁被害の判定(無被害)

手引き-21

被害の判定値 ※基礎点に被害点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し		基礎点 + 被害点 <input type="text"/> + <input type="text"/> 0 = <input type="text"/> 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1 ~ 4.5 点未満 (当面は防災上問題無し) 中被害： 4.5 点 ~ 8.5 点未満 (制限付き立入、進行していれば避難) 大被害： 8.5 点 ~ (危険、要避難、立入禁止)
危険度判定		<input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小 <input checked="" type="checkbox"/> 無	(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。)
所見(記入者の意見) ※無被害の場合記載無し	緊急	<input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小	(備考：)
拡大の見込み	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 判断不可	

擁壁被害の判定

手引き-23

被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・変状点の記載無し		基礎点 + 変状点 0.4 + 8.0 = 8.4 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1 ~ 4.5 点未満 (当面は防災上問題無し) 中被害 4.5 点~8.5 点未満 (制限付き立入、進行していれば避難) 大被害： 8.5 点~(危険、要避難、立入禁止)
危険度判定	<input type="checkbox"/> 大 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 無		
所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊 急 <input checked="" type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小	(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。)	
拡大の見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 判断不可	(備考：)	

「被害程度の判定値」より判定する

所見(記入者の意見):緊急度

手引き-3

※無被害の場合は記載しなくてよい。

大→すぐに措置しなければならない。

明らかに交通が困難な状況で家屋等個人の財産が崩壊しており、そのまま放つておくと構造物や人命に危険が及びそうな二次的災害が起こり得るもの。

中→ある程度の日数は放置しておくことができる。

やや交通が困難で、家屋等個人の財産に被害が見受けられ、長期間放つておくには危険すぎると思われるもの。

小→ある程度の期間は放置しておくことができる。

交通はさほど困難ではなく、家屋等にもあまり被害は見受けられない。構造物や人命に対して危険ではないもの。

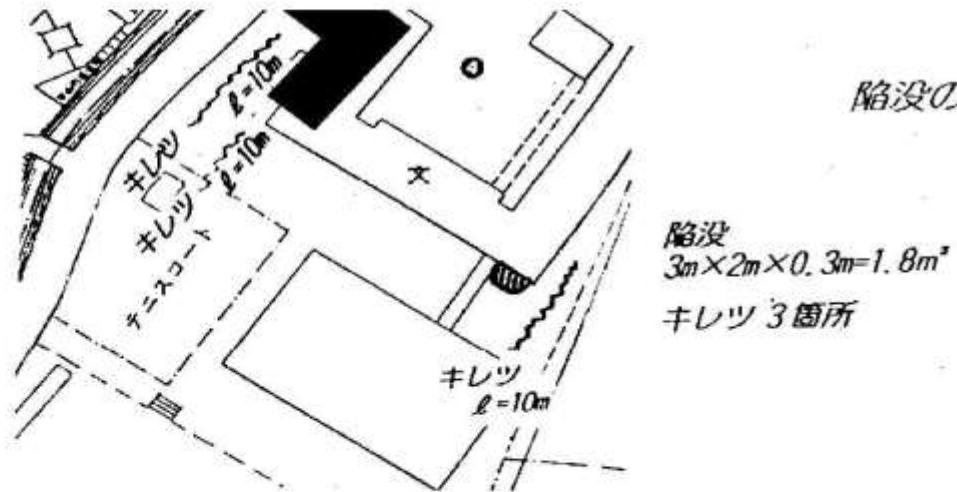
所見(記入者の意見):拡大の見込み

手引き-3

- 「拡大の見込み」の有無の判断は、危険度の評価、緊急性度及び現場の状況等を総合的に勘案して該当するものをチェックする。
- ここに示す「拡大の見込み」は、被害そのものが今後どのようになるのか、収束するのか、拡大するのかを考慮し、拡大をする場合の「拡大の見込み」として判定士が記入するものである。
- 判定士が記入する拡大の見込みの「有・無・判断不可」については、危険度の評価、緊急性度、現場の状況、今後の天候の見込み、余震の継続、被害箇所周辺の施設など、総合的に勘案し「評価」する。

特記事項の記入

手引き-26



陥没の深さ：約30cm

陥没
 $3m \times 2m \times 0.3m = 1.8m^3$
キレツ 3箇所

〔平面図〕

〔断面図〕

被災写真の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 → 写真番号 [B-2 ①~⑧]
特 記 事 項	キレツや陥没の被害自体は大きいが居住者のいない学校なので、避難するほど危険ではない。

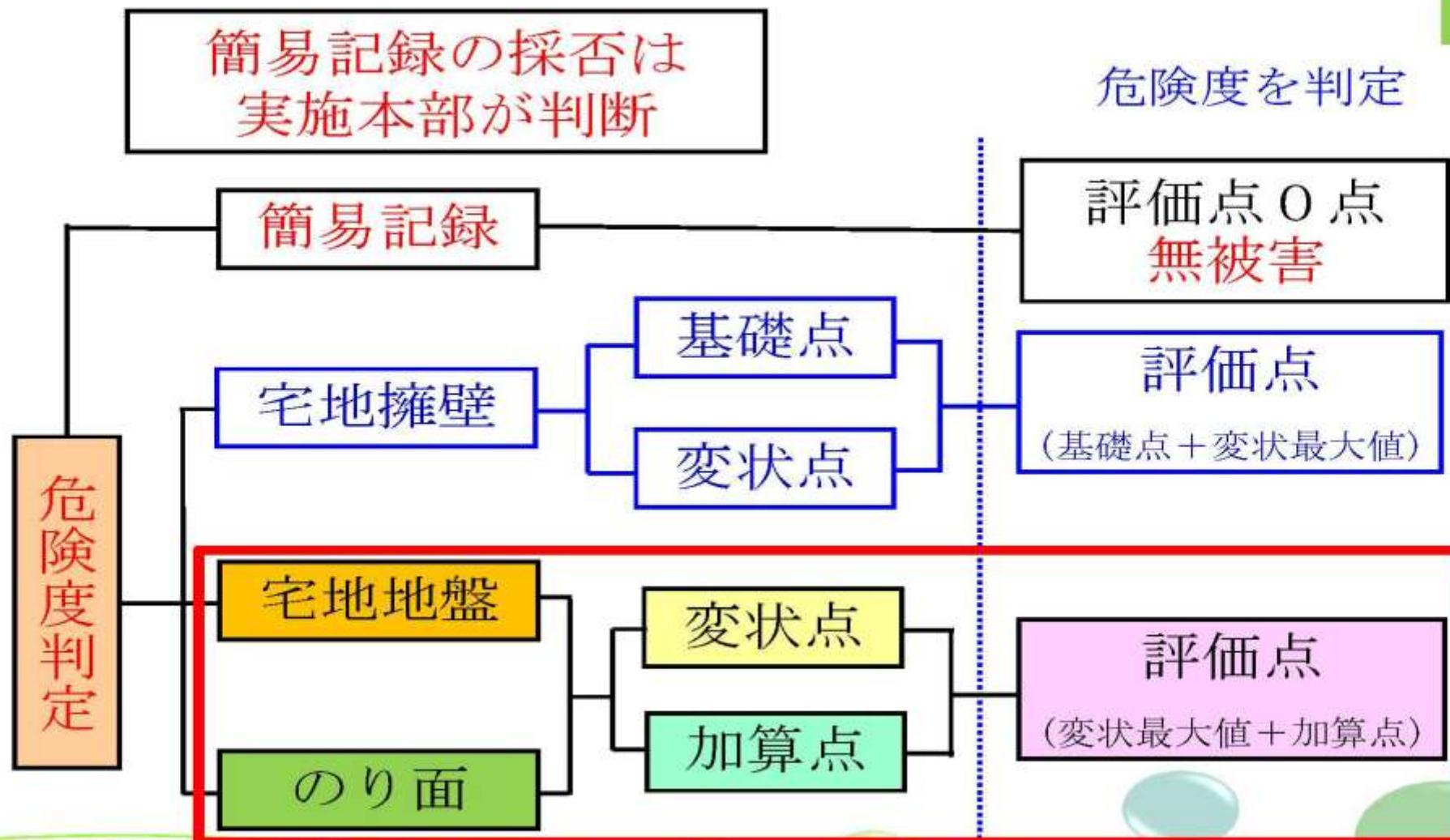
PartIV 宅地地盤・のり面調査票



2004新潟県中越地震の被害

3. 1 危険度判定の実施

判定マーク



宅地地盤の危険度評価

(1) 宅地地盤の調査・判定の手順

判定マ - 40

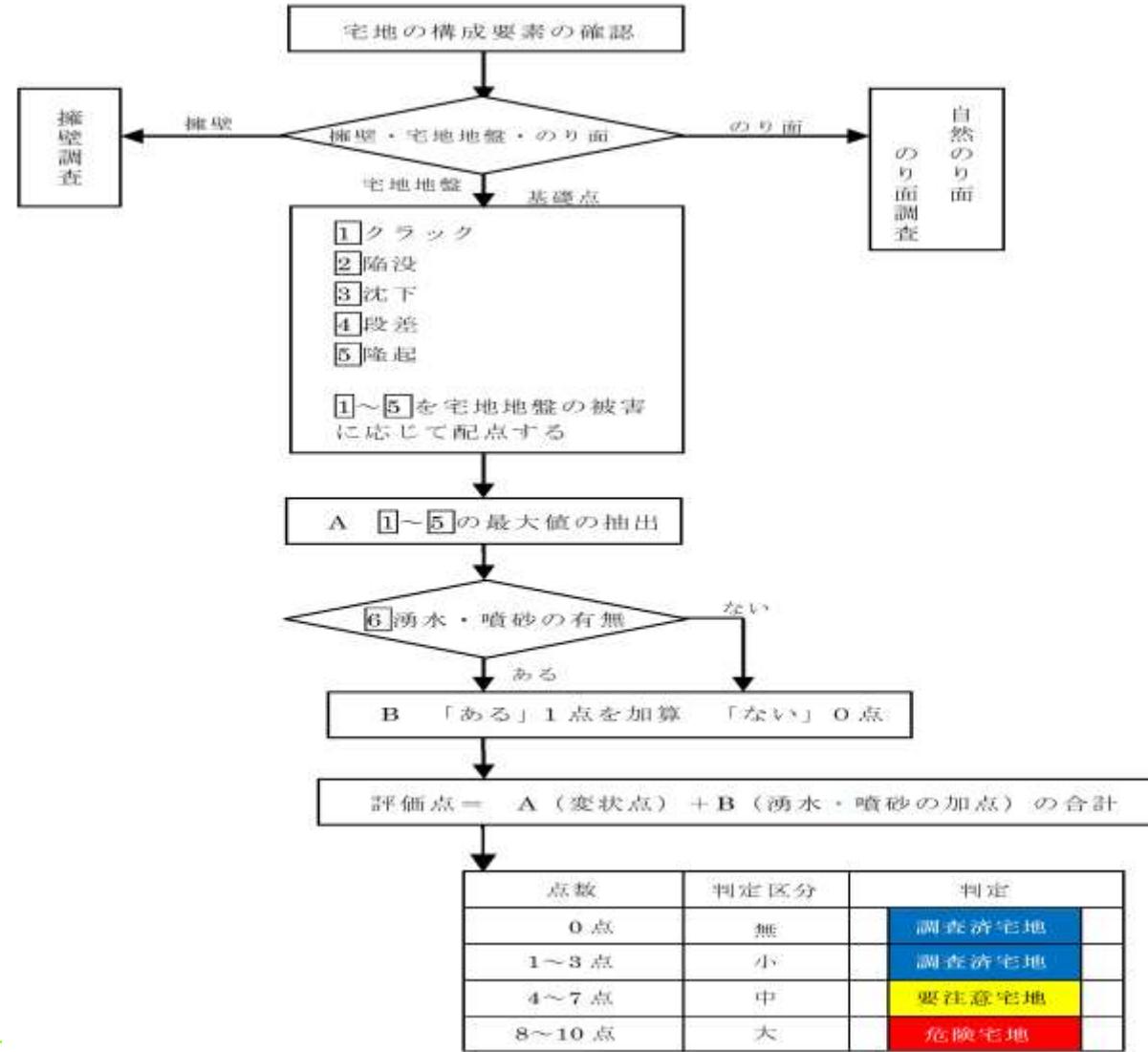


図3-6 宅地地盤の危険度判定のフロー

(3) 変状項目

1) 宅地地盤のクラック

判定マー43

変状の程度「大・中・小」の概要説明と配点

項目	小	中		大	
クラック(幅)	3cm未満 1	3~15cm未満又は複数 3		15cm以上又は全面 5	

クラック



(3) 変状項目

2) 宅地地盤の陥没

判定マー44

変状の程度「大・中・小」の概要説明と配点						
項目	小	中		大		
陥没(深さ)	20cm未満	2	20~50cm未満	4	50cm以上	6
宅地陥没						

(3) 変状項目

3) 宅地地盤の沈下

判定マー45

変状の程度「大・中・小」の概要説明と配点

項目	小	中	大
沈下 (沈下量)	10cm未満 2	10~25cm未満 4	25cm以上 7
宅地沈下	 	 	

(3) 変状項目

3) 宅地地盤の段差

判定マー46

変状の程度「大・中・小」の概要説明と配点

項目	小	中	大
段差(段差量)	20cm未満 	20~50cm未満 	50cm以上 

(3) 変状項目

5) 宅地地盤の隆起

判定マー47

変状の程度「大・中・小」の概要説明と配点

項目	小	中	大
隆起(隆起量・規模)	20cm未満 7	20~50cm未満 8	50cm以上 9

宅地 隆起



87

(3) 変状項目

6) 宅地地盤の湧水・噴砂

判定マー48

変状の程度「大・中・小」の概要説明と配点

湧水・噴砂があるところの「最大値」の点数に「1点」加える

湧水
・
噴砂



(a) 液状化の被害



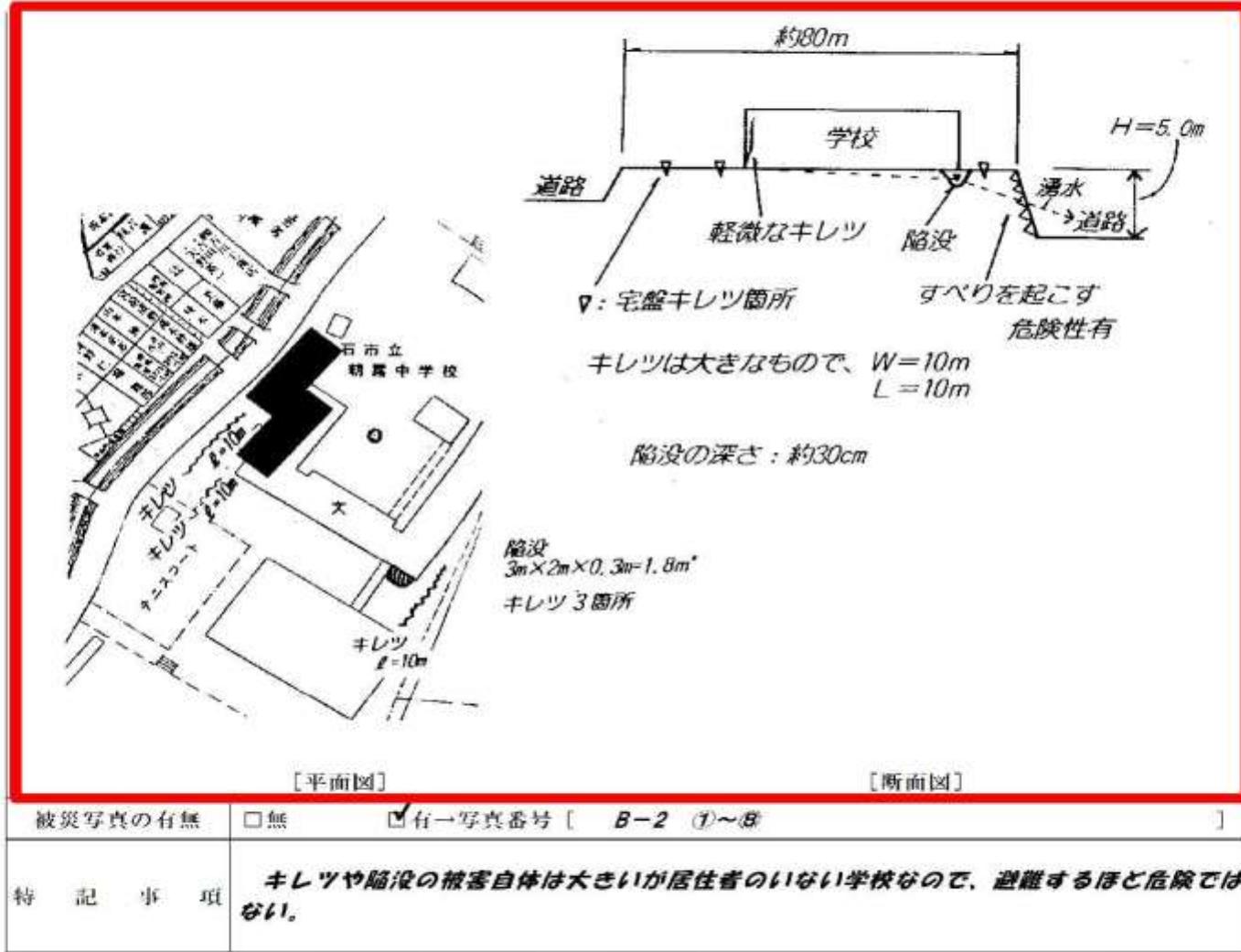
(b) 地震により湧水が出た箇所

被災状況図の記入例

手引きー26

<被 災 状 況 図>					応急措置		<input type="checkbox"/> 済	<input type="checkbox"/> 未了
宅 地 地 盤					のり面・自然斜面			
1. クラック	2. 陥没	3. 沈下	4. 段差	5. 隆起	1. クラック	2-1. ハラミ	2-2. 盤ぶくれ	3. カリ-浸食
5. のり面保護工変状					4-1. 滑落			
6. 排水施設の変状								

被災状況図の記入



宅地地盤の変状形態と変状点

手引き-27

変 状 形 態 と 配 点 表						
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)	小		中		大
	1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15cm 未満又は複数	3	15cm 以上又は全面 5
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上 6
	3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm以上 7
	4 段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上 8
	5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上 9
	6 湧水、噴砂	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有→1点(上の点数に1点加える)				

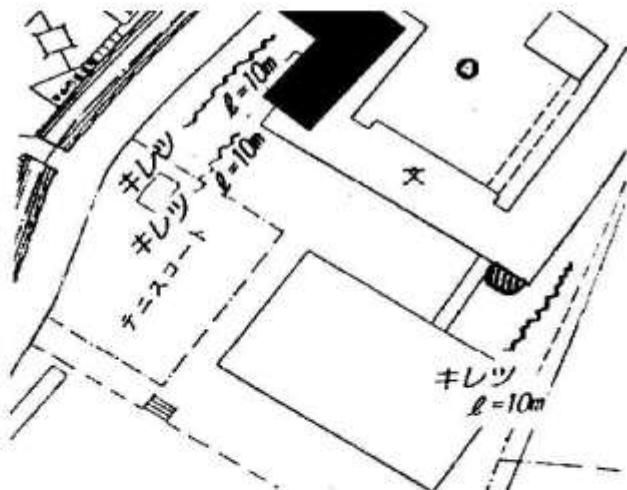
(5) 宅地地盤に伴う被害の判定

被害の判定値 ※基準点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し	5 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1 ~ 3 点(当面は防災上問題無し) 中被害 ： 4 ~ 7 点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害： 8 ~ 10 点(危険、要避難、立入禁止)	手引き-27
危険度判定	<input type="checkbox"/> 大 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 無		
所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊急度	<input type="checkbox"/> 大 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)	
	拡大の見込	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 判断不可 (備考：)	

点 数	判定区分	判 定	判定マ - 50
0	無	防災上の問題はないと考えられる	調査済宅地 調査済宅地
1~3点	小	変状は見られるが当面は防災上の問題はない	
4~7点	中	変状が著しく、当該住宅に立ち入る場合は、時間、人数を制限するなど十分注意する。また、変状が進行していれば避難も必要	要注意宅地
8~10点	大	変状等が特に顕著で危険である。避難立入禁止措置が必要	危険宅地

特記事項の記入

手引き-26



陥没の深さ：約30cm

陥没
 $3m \times 2m \times 0.3m = 1.8m^3$
キレツ 3箇所

〔平面図〕

〔断面図〕

被災写真の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 → 写真番号 [B-2 ①~⑧]
特 記 事 項	キレツや陥没の被害自体は大きいが居住者のいない学校なので、避難するほど危険ではない。

宅地地盤に関する被害



1. 地盤の沈下

2. 地盤のクラック

3. 地盤の陥没

宅地地盤に関する被害

4.

4. 地盤の液状化



5.

5. 地盤の隆起



6.

6. 段差

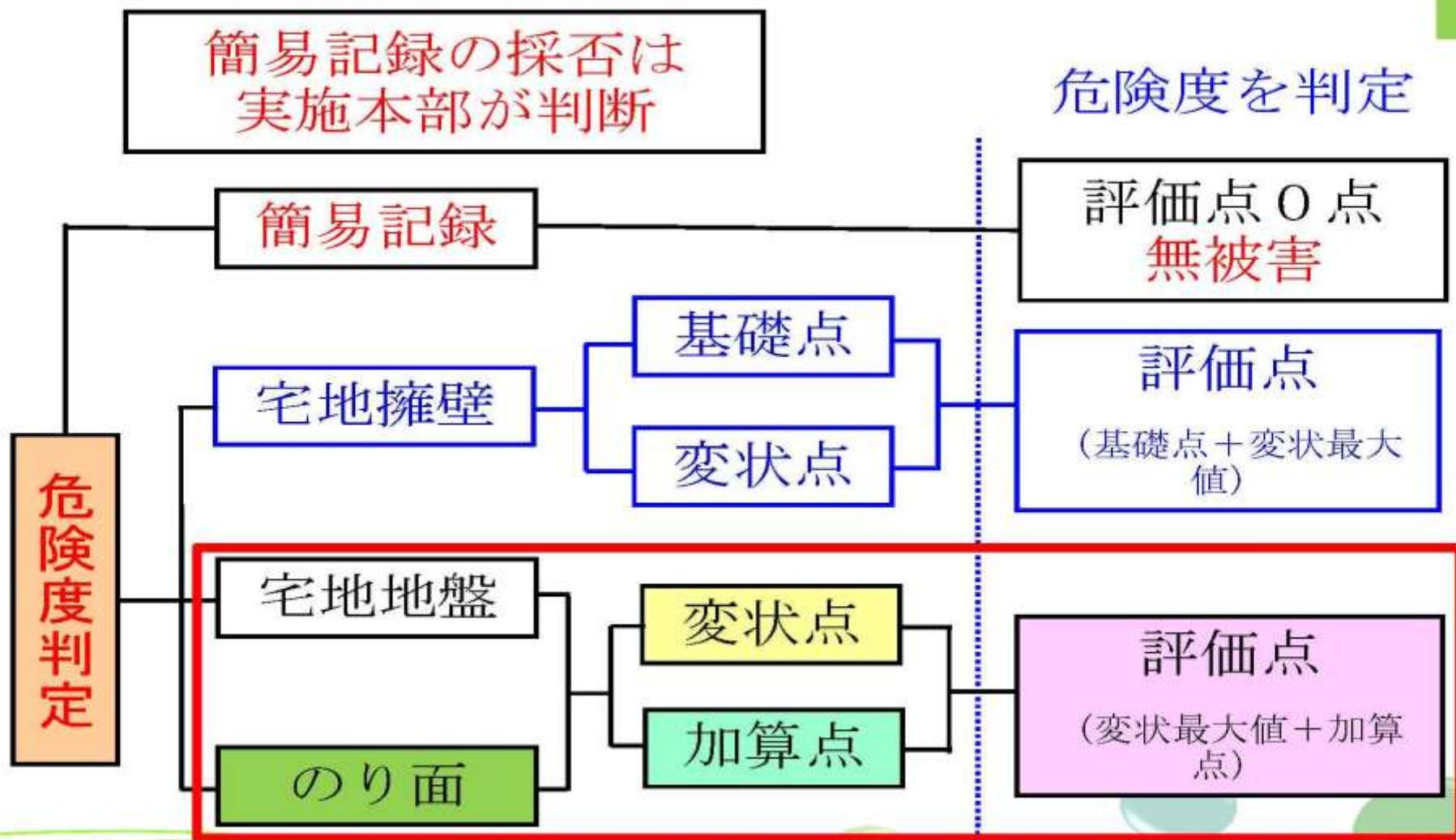
3. 4 宅地のり面等の危険度判定



2011年東日本大震災での福島市
あさひ台の被害

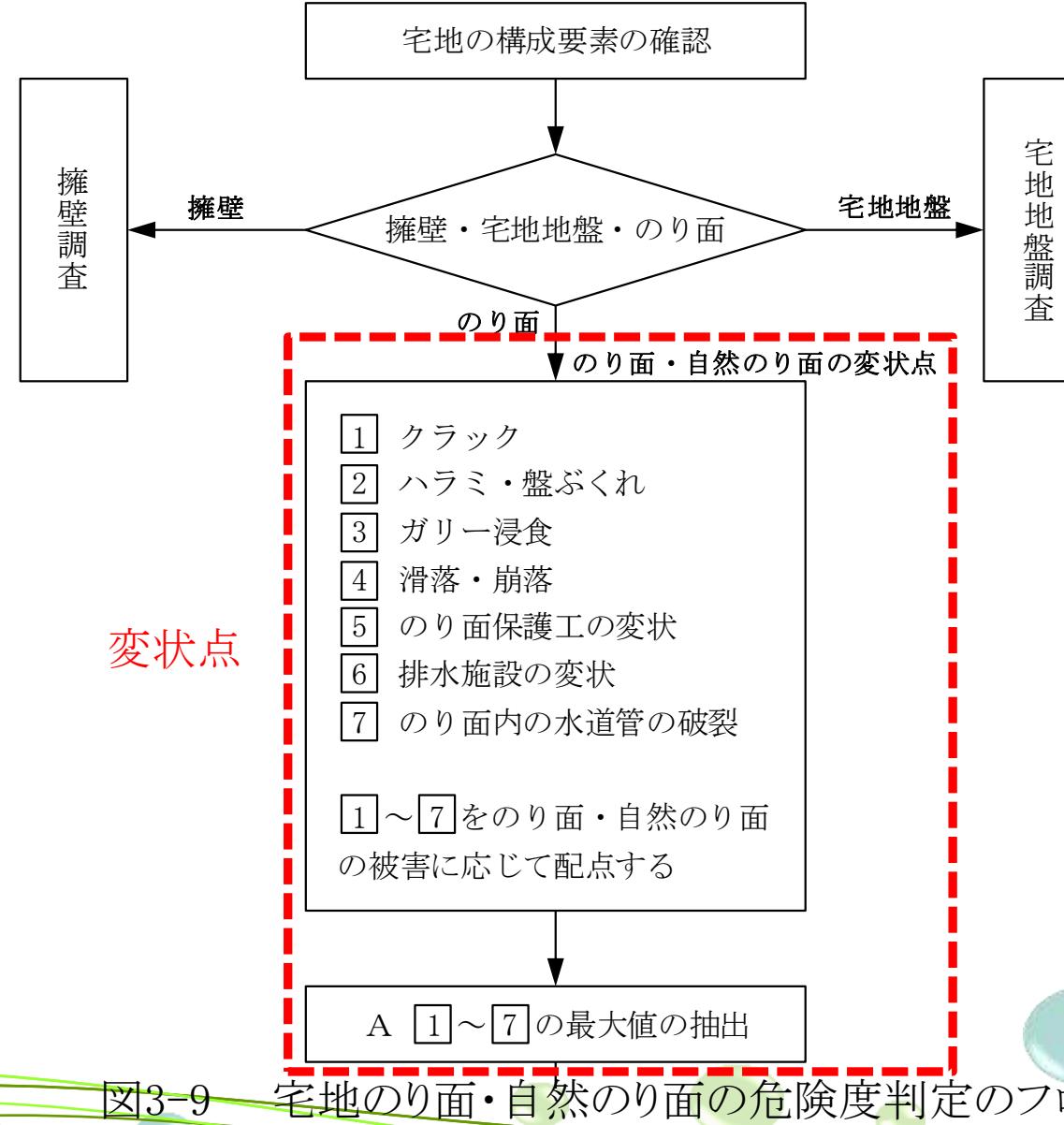
危険度判定の実施フロー

判定マーク13



(1) 宅地のり面・自然のり面調査・判定の手順(上)

判定マー52



(1) 宅地のり面・自然のり面調査・判定の手順(下)

判定マー52

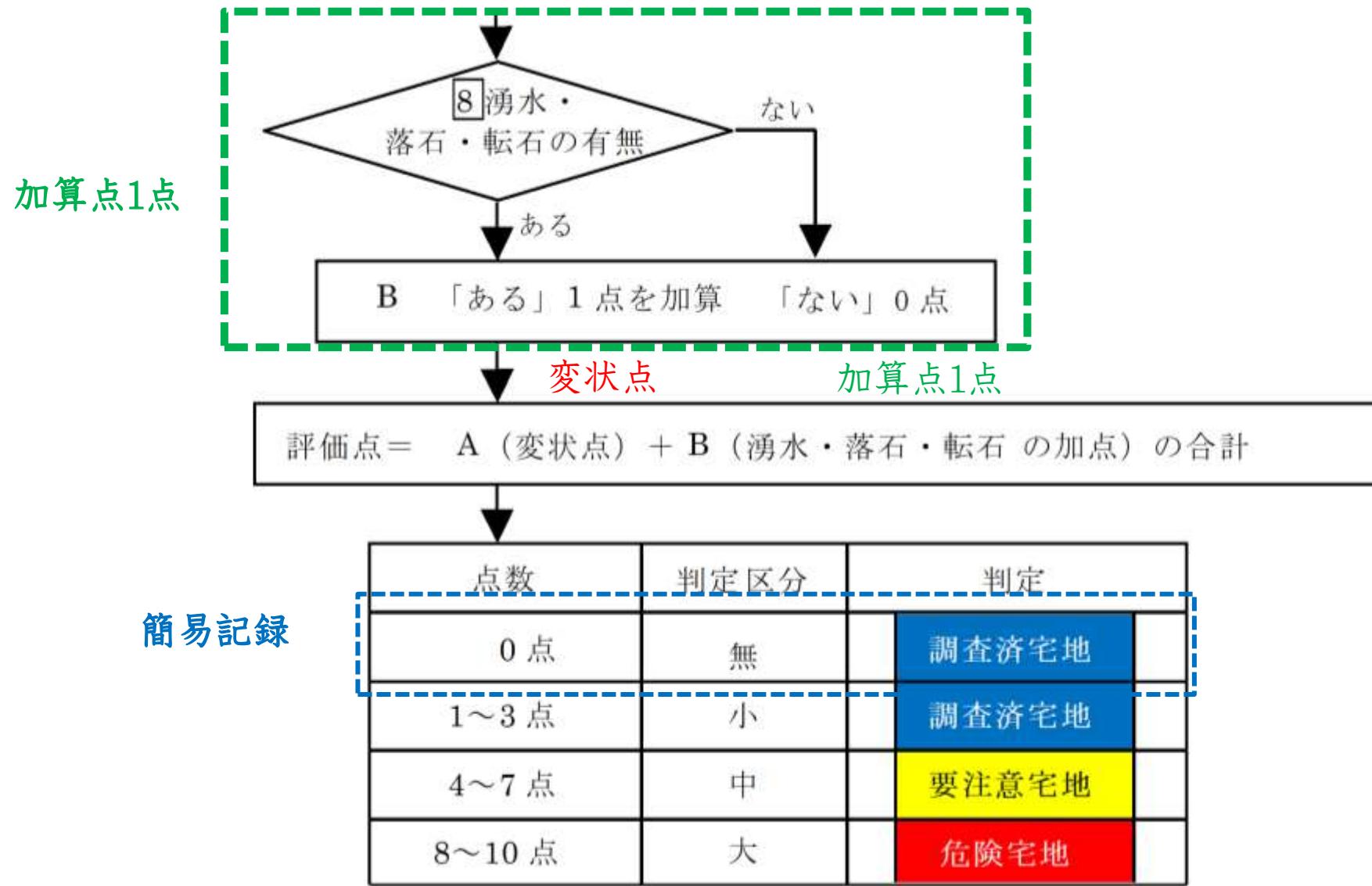


図3-9 宅地のり面・自然のり面の危険度判定のフロー

(2) 宅地のり面の基礎的条件

判定マー53

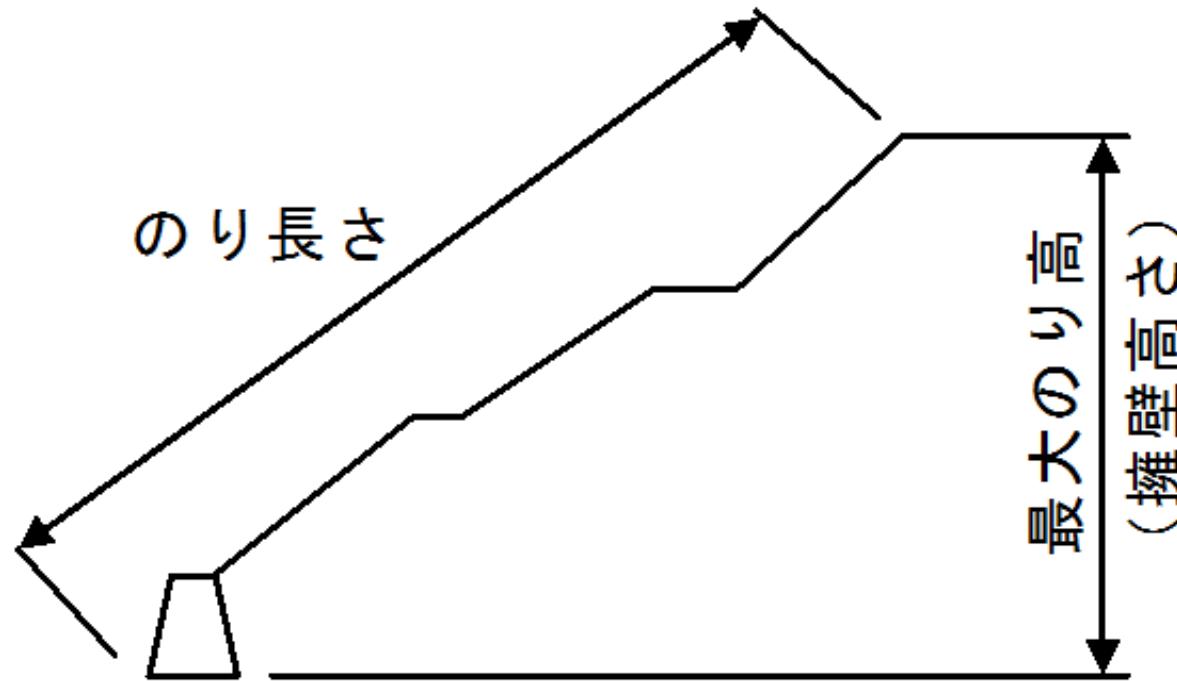


図3-11 宅地のり面高さ・長さ

100

(3) 変状項目 1)のり面のクラック

判定マー54

項目／程度	小	中	大
クラック (幅)	3cm未満又は単数	3~15cm又は複数	15cm以上又は全面
	1	2	3



(3) 変状項目

2)のり面のハラミ・盤ぶくれ

判定マー55

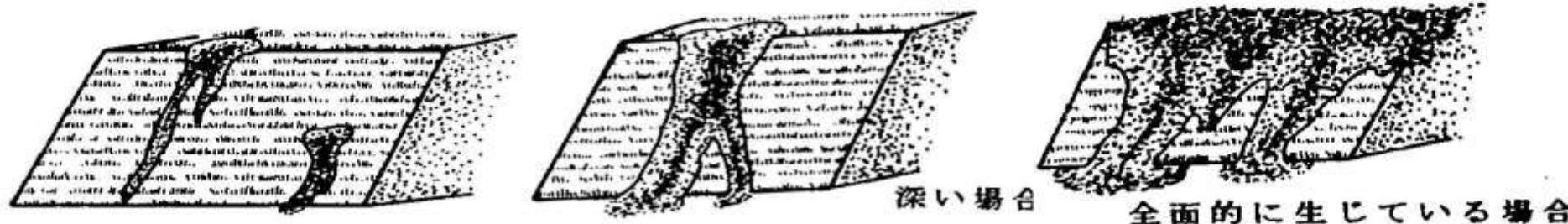
項目／程度	小	中	大
ハラミ・盤ぶくれ	10cm未満又は 1宅地ごとの のり面等面積 に対し10%未満	10~30cm未満又は 1宅地ごとの のり面等面積 に対し10~50%	30cm以上又は 1宅地ごとの のり面等に対し50% 以上
	3	4	5



(3) 変状項目
3) ガリー浸食

判定マー56

項目／程度	小	中	大
ガリー浸食	クラックなどが誘因となつて雨滴による浸食が現れはじめた段階	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの	洞穴状や滝壺状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態
	6	7	8



変状項目

3)ガリー浸食

判定マー56



(3) 変状項目:4)滑落・崩落

判定マー57

項目／程度	小	中	大
滑落・崩落	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊
	7	8	9



(3) 変状項目

5) 滑落・崩落

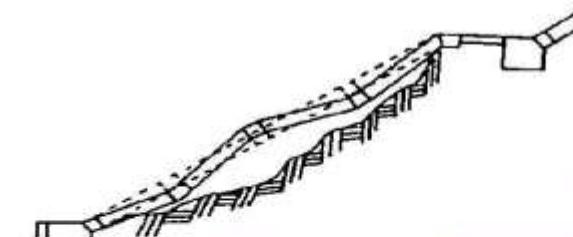
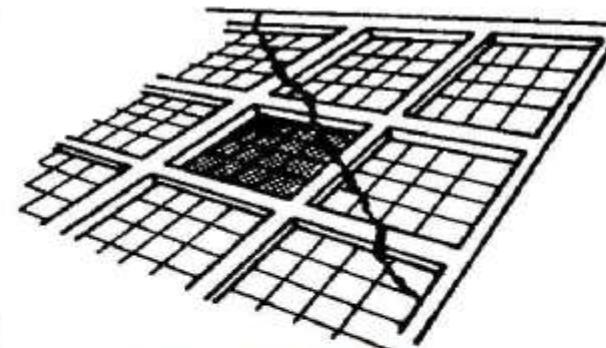
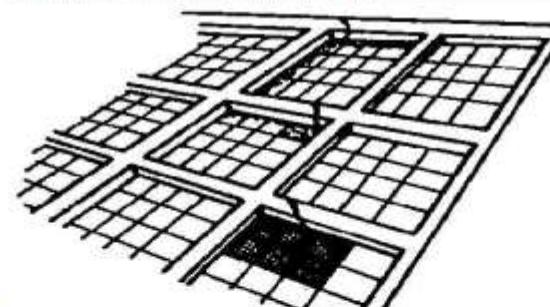
判定マー62

項目／程度	小	中	大
のり面保護工 (のり枠工)	のり枠の間詰め陥没。コンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度	のり枠の部分的な破損。又コンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる	のり枠の浮上り破壊。コンクリート吹付工のラス金鋼が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる

7

8

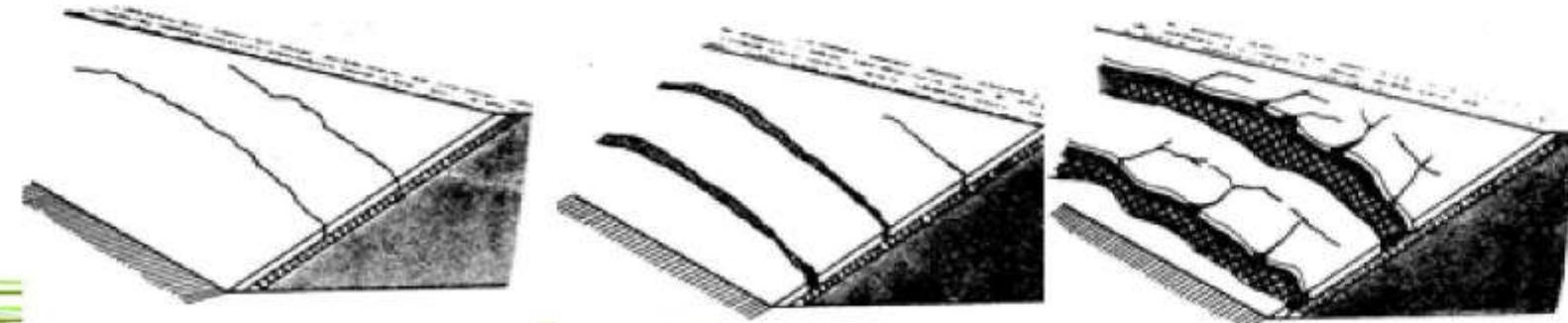
9



(3) 変状項目：5)のり面保護工

判定マー62

項目／程度	小	中	大
のり面保護工 (コンクリート吹付工)	のり枠の間詰め陥没。コンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度	のり枠の部分的な破損。又コンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる	のり枠の浮上り破壊。コンクリート吹付工のラス金鋼が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる
	7	8	9



(3) 変状項目：5)のり面保護工

判定マーク-58

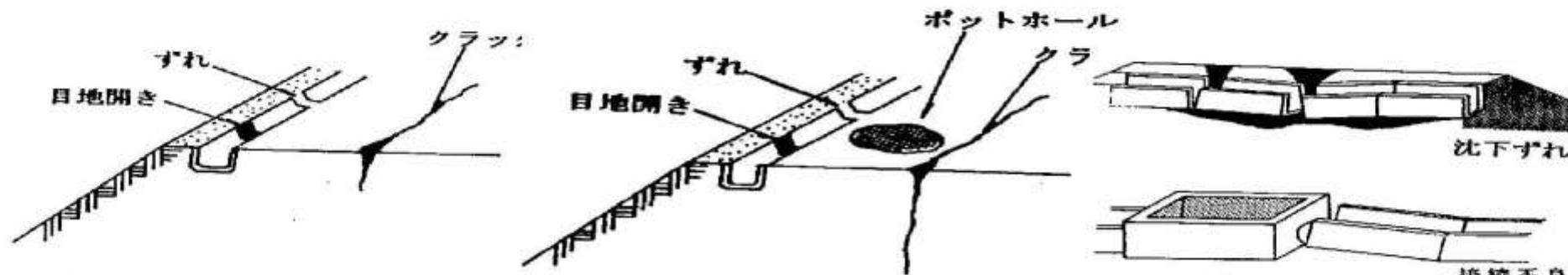


(3) 変状項目

6) 排水施設の変状

判定マー59

項目／程度	小	中	大
排水施設の変状	天端排水溝にすれ、欠損がある又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている
	3	5	7



(3) 変状項目
6) 排水施設の変状

判定マー59



(3) 変状項目

7) 水道管破裂/湧水・落石・転石

判定マー59

項目／程度	小	中	大
のり面内の水道 管等の破裂		破裂して水が流出している	
湧水・落石 転石		湧水・落石・転石の有無を確認する	大中小ではなく有無を確認し、1点数を加算



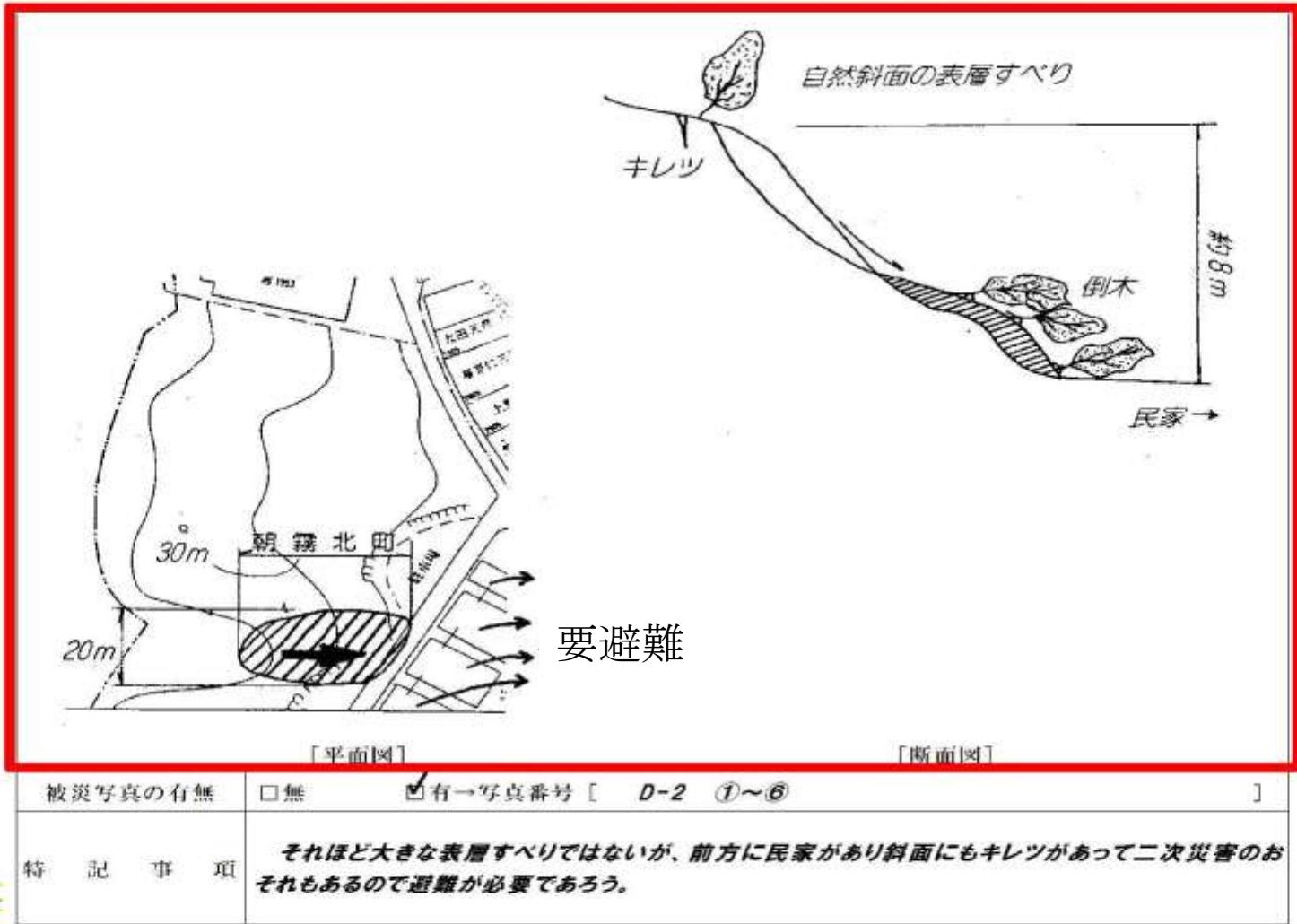
のり面・自然斜面の被災状況図の記入例

手引き-30

<被 災 状 況 図 >					応急措置		<input type="checkbox"/> 済	<input type="checkbox"/> 未了		
宅 地 地 盤					のり 面 ・ 自 然 斜 面					
1. クラック	2. 陥没	3. 沈下	4. 段差	5. 隆起	1. クラック	2-1. ハラミ	2-2. 盤ふくれ	3. ガリ-浸食	4-1. 滑落	4-2. 崩壊
5. のり面保護工変状		6. 排水施設の変状								

被災状況図の記入

手引き-30



のり面・自然斜面の基礎的条件

手引きー31

のり面・自然斜面の基礎的条件								
地盤	岩	<input type="checkbox"/> 軟岩	<input type="checkbox"/> 硬岩	<input checked="" type="checkbox"/> 不明	オーバーハング	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有		
土 砂	<input checked="" type="checkbox"/> 砂質上口礫質上口粘性上口不明				排水施設	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有のり肩、小段排水		
のり面高		最大高 8 m(平均高 7 m)		のり面保護工		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有上 <input type="checkbox"/> 構造物		
のり面高差		(うち脚壁高 なし m)		擁壁配置 なし		<input type="checkbox"/> のり面の上部 <input type="checkbox"/> のり面の中部 <input type="checkbox"/> のり面の下部 <input type="checkbox"/> 全面		
のり長さ		17 m		家屋の有無		<input type="checkbox"/> 上部 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> ： 下部 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
変状形態と配点表								
宅地地盤	変形状態のチェック(箇数印)		小	中	大			
	1 クラック(幅)	3 cm未溝	1	3~15 cm未溝又は複数	3	15 cm以上又は全面		
	2 臨浸(浸き)	20 cm未溝	2	20~50 cm未溝	4	50 cm以上		
	3 沈下(沈下量)	10 cm未溝	2	10~25 cm未溝	4	25 cm以上		
	4 段差(段差幅)	20 cm未溝	3	20~50 cm未溝	5	50 cm以上		
	5 隆起(隆起量)	20 cm未溝	7	20~50 cm未溝	8	50 cm以上		
	6 滝水、噴砂	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有→+1点(上の点数に1点加える)						
のり面	変形状態のチェック(箇数印)		小	中	大			
	1 クラック(幅)	3 cm未溝又は単数	1	3~15 cm未溝又は複数	2	15 cm以上又は全面		
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未溝	3	10~30 cm未溝	4	30 cm以上		
	3 ガリー侵食	クラックなどが雨漏りとなって雨滴による浸食が現れはじめた段階。		のり面の表土が雨露に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。		網状や籠状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。		
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。		表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中盤までの崩壊。		全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。		
	5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり仲の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のすれば認められない程度。		例えば、のり仲の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没、それが見受けられる。		例えば、のり仲の浮上り陥没。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。		
	6 排水施設の変状	天端排水溝にいずれ、欠損がある。又は、天端背面、蓄積面にクラックが見られる。		左に加え、のり面のクラック、又は日地からの湧水がある。		排水溝が被断沈下するなど、排水機能が失われている。		
自然斜面	7 のり面内の水道管等の破損	破裂して水が流出している。						
	8 滝水、落石・転石	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有→+1点(上の点数に1点加える)						
	被害の程度		9	点	★被害程度の点数と危険度判定★ 無被害： 0 点(防災上問題なし) 少被害： 1 ~ 3 点(当面は防災上問題なし) 中被害： 4 ~ 7 点(洞開付近立入り) 大被害： 8 ~ 10 点(危険、要避難、立入禁止)			
	危険度判定		<input checked="" type="checkbox"/> 大	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 小	<input type="checkbox"/> 無		
所轄区域の適切な対応		(人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)						
緊急度		<input type="checkbox"/> 大	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 小				
所轄区域の適切な対応		<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 判断不可	(参考：)			

のり面・自然斜面の基礎的条件

手引き一7

■のり高

のり面高さの記入(既存資料や実測による)
→ 不可能な場合は目測による

■のり面勾配

既存資料又は現地測定により、のり面勾配を記入する。

■のり長さ

のり面の長さを記入する

■オーバーハング

自然斜面の場合、オーバーハングの有無をチェックする。

のり面・自然斜面の変状形態と変状点

手引き - 31

の り 面 ・ 自 然 斜 面	変形状態のチェック(複数可)	小		中		大	
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複数	2	15 cm以上又は全面	3
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上	5
	3 ガリー浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
	5 のり面保護工の変状 (植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。					
	8 湧水、落石・転石	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有→+1点(上の点数に1点加える)					

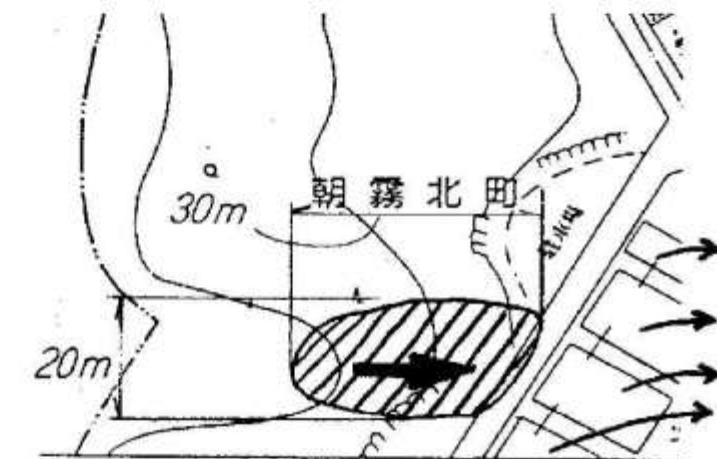
のり面・自然斜面被害の判定

手引き - 31

被害の判定値 ※基準点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し	8 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1 ~ 3 点(当面は防災上問題無し) 中被害： 4 ~ 7 点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害： 8 ~ 10 点(危険、要避難、立入禁止)
危険度判定	<input checked="" type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 無	
所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊急度 <input checked="" type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 小	(人命・財産・交通の 3 点を判断基準とする。)
	拡大の見込 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 判断不可	(備考：)

被災状況図の記入

手引き-30

		<p>要避難</p>
<p>「平面図」</p>		
被災写真の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有→写真番号 [D-2 ①~⑥]	
特記事項	それほど大きな表層すべりではないが、前方に民家があり斜面にもキレツがあって二次災害のおそれもあるので避難が必要であろう。	

複合被害の場合

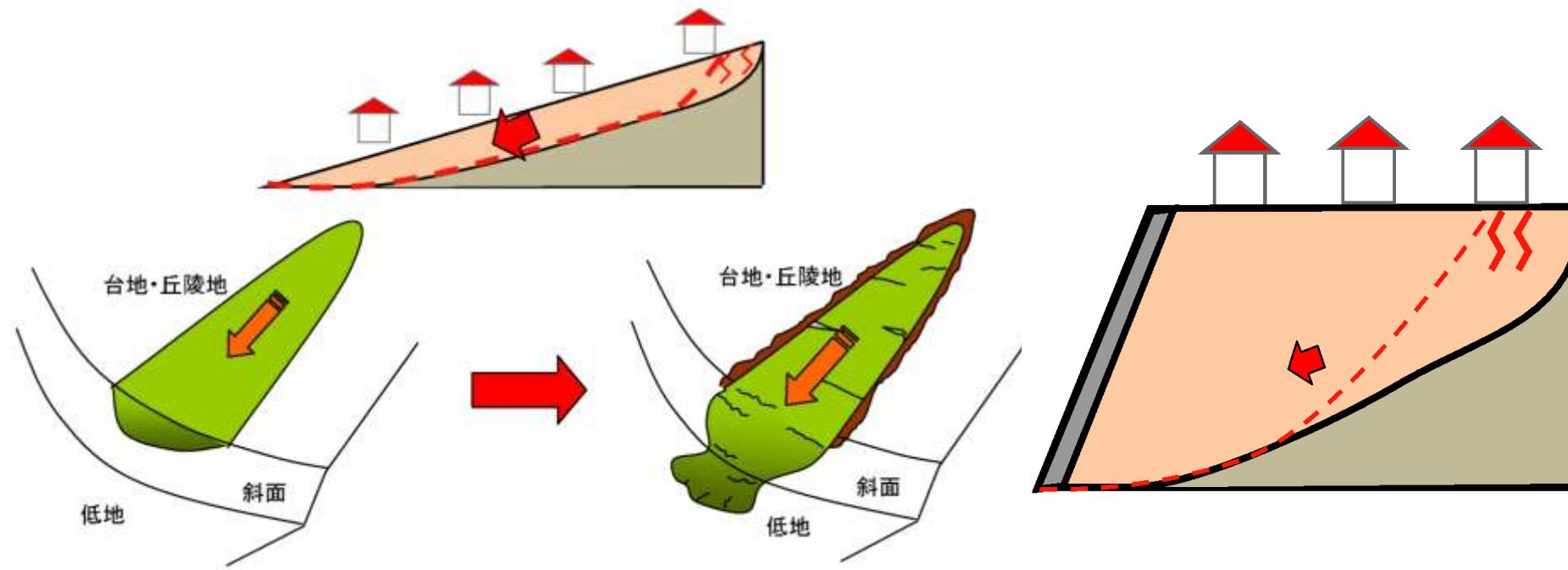
手引きー5

- 擁壁・宅地地盤、擁壁・のり面等の複合被害がある場合は、(様式ー1)と(様式ー2)の両方の帳票を用いて判定を行う。
- ただし、(様式ー1)と(様式ー2)のうち共通する部分(例えば「被災状況図」など)と擁壁の危険度判定については(様式ー1)に記入し、のり面の危険度判定については、(様式ー2)に記入するものとする。

大規模盛土滑動崩落

手引き - 4

宅地地盤全体に被害が及んでいる場合は、地滑りや地盤の側方流動などが考えられる。このような場合は、調査票に被害が分かる代表断面図等記録し、状況に応じて地滑り、地盤工学等の専門家に支援を受けるべく、災害対策本部に報告する。



(a)谷埋め型大規模盛土

(b)腹付け型大規模盛土

図-1 大規模盛土造成地で発生する滑動崩落

宅地地盤全体の被害



(a)のり尻の隆起の事例



(b)のり肩の亀裂の事例



(c)腹付け盛土の崩壊の事例



(d)液状化による側方流動の事例

Part V: その他



- 判定ステッカー
- その他



H16新潟県中越地震の被災宅地相談窓口

判定活動の一日の流れ

(1) 指定場所(実施本部等)へ集合

(2) ミーティング

(3) 各班毎に現地へ移動

(4) 判定活動

(5) 実施本部へ移動

(6) 判定結果のとりまとめ

(7) 判定調整員へ報告

(8) 翌日の判定活動の確認

(9) 解散

外業

内業

1、実施本部集合、2、ミーティング

- ・注意事項
- ・判定地域の説明
- ・資料配付(判定地域までの地図、住宅地図、判定表、ステッカー、説明用リーフレット等)



説明用リーフレット

被災宅地危険度判定を行っています

被災宅地の危険度判定制度

災害対策本部が設置されるような大規模な地震または大雨等によって、宅地が大規模かつ広範囲に被災した場合、要請を受けた被災宅地危険度判定士が危険度判定を実施し、被害の発生状況を迅速かつ正確に把握することにより、宅地の二次災害を軽減・防止し住民の安全を確保することを目的としています。

被災宅地危険度判定士とは・・・

被災宅地危険度判定士（以下、「宅地判定士」）は、被災した市町村又は都道府県の要請により、宅地の二次災害の危険度の判定を行う技術者です。主に土木、建築等の技術者で、一定の専門技術資格・経験を有し、都道府県が実施する「被災宅地危険度判定士講習会」の受講した後に登録した者です。
判定活動をする場合、登録証を携帯し、「被災宅地危険度判定士」と掲示した胸章やヘルメットを着用しています。

判定の概要

宅地判定士を含む2~3人が1組になって、踏査票等に定められた客観的な基準により、目視できる範囲の箇所について被害状況を踏査し、その結果をもとに危険度を判定します。その際、危険と思われる宅地には立ち入らないで踏査することもあります。

被災宅地危険度判定（検査）
主な被災状況を把握しながら、宅地の半壊、倒壊等の被害状況を踏査し、宅地全体の被災度を客観的に評価する検査です。

被災宅地危険度（危険度）
宅地に危険が及ぶる確率を算出し、宅地全体の被災度を踏査して、危険度を算出します。

被災宅地危険度の評価
各被災状況の数値を各被災状況の割合で乗算し、各被災状況による二つの危険度を加算して、危険度を算出します。

被災宅地危険度の報告
各被災状況の数値を各被災状況の割合で乗算して、各被災状況による二つの危険度を加算して、危険度を算出します。

被災写真の撮影要領

表2-2 調査における被災写真撮影要領

判定マ-12

1、被写体に関する記事の写し込み(ホワイトボード等に書き込み)

■必 須 : 災害名称、整理番号、撮影年月日・時間、被災地住所

2、撮影範囲等

一つの被写体について、全景写真、局部写真を各1枚以上

3、撮影に当たっての留意事項

■全景写真 : 被害の始点と終点がわかるように。

局部写真との位置関係がわかるように。

■局部写真 : 目立つ建物、構造物等を入れ撮影箇所がわかるように。

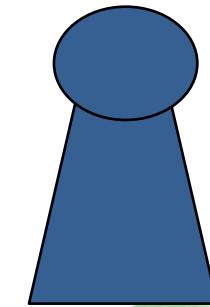
ポール、コンベックス等を利用し、被災対象物の長さ、幅
深さ、移動量等がわかるように。

擁壁などの被災は、破損していない部分を入れて撮影。

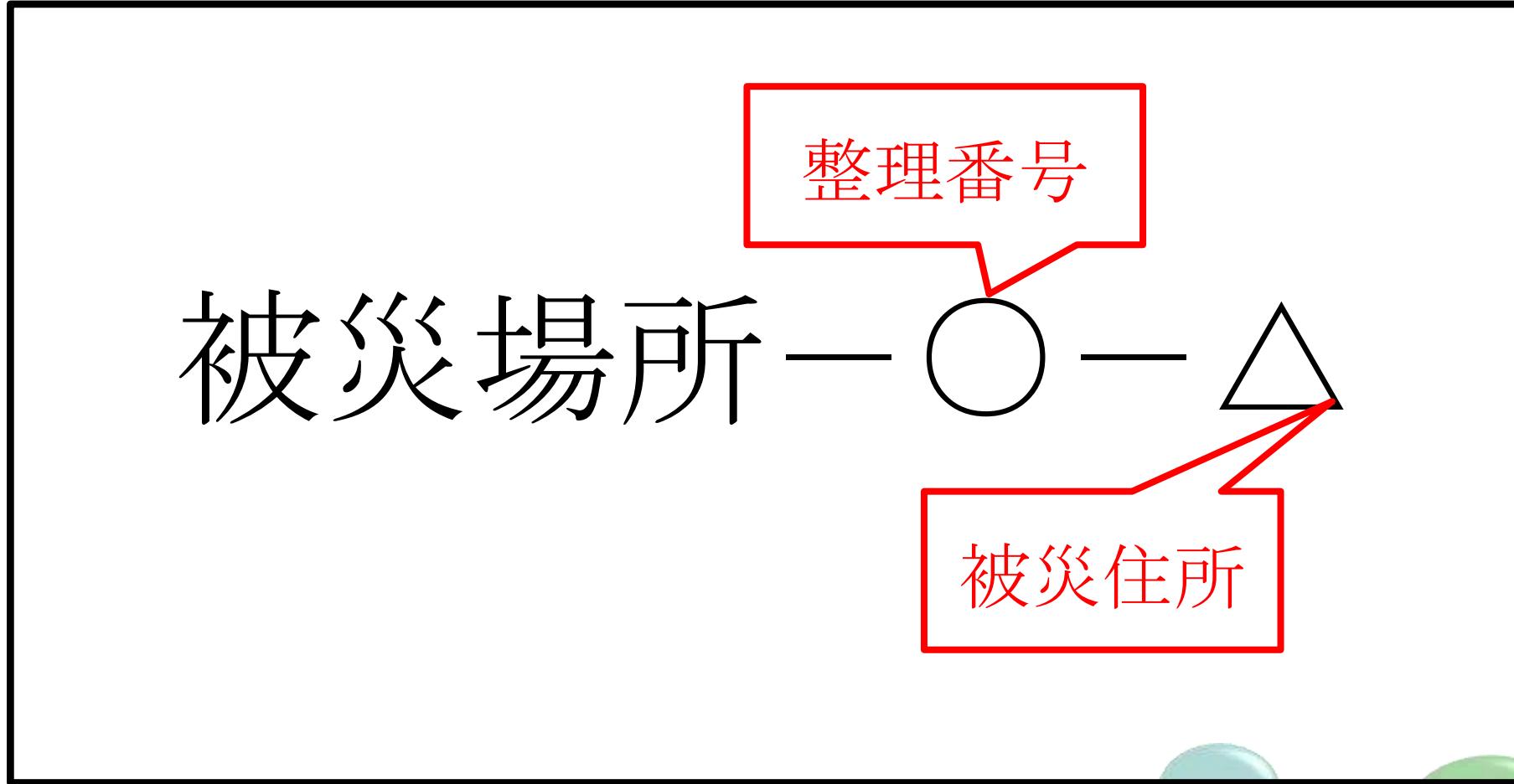
4、写真の整理は、平面図や調査票と対応できるように。

4. 判定活動(役割分担)

役割分担



4. 判定活動(ホワイトボードの記載例)



4.判定活動(写真撮影)

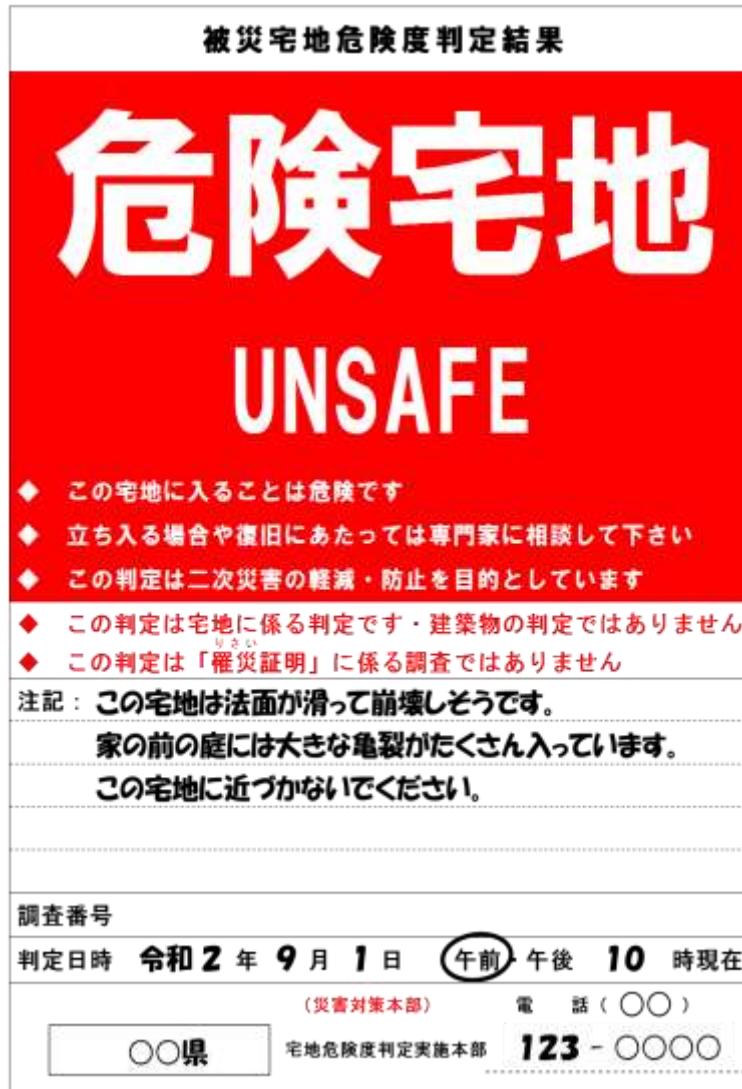


判定結果のステッカー



判定ステッカーによる現地表示例

手引き－10



ステッカーには、以下の内容を簡潔に記入する。

① 何が危険であるか
② 判定日時
③ 宅地危険度判定実施本部の連絡先
④ 無被害の場合は、「簡易記録」として記載を省略してもよい。

図-3 危険度判定ステッカーの記入例

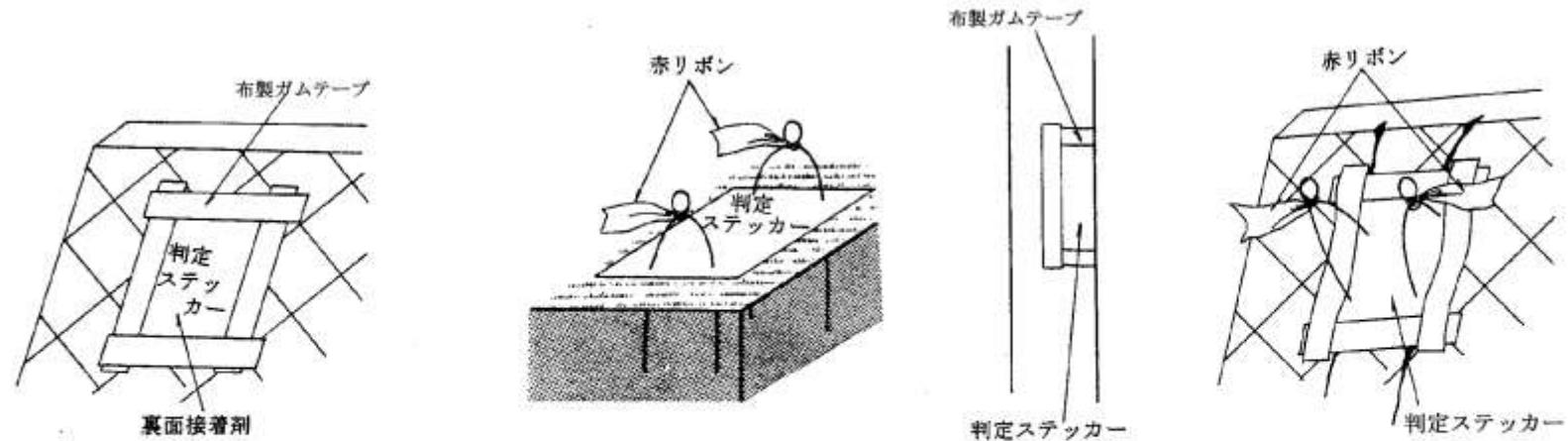
判定ステッカーによる表示例



判定ステッカーによる現地表示方法

判定士は、調査票による被災宅地危険度判定結果から被災程度に応じたステッカーで現地表示を行う。ステッカー添付する場所は、その宅地に出入りする人、その宅地の周辺の人が目に付きやすい場所とし、玄関先、塀、擁壁、車庫などにガムテープ、針金など貼り付け、風などで飛ばないようにする。

なお、雨が当たりそうな箇所では、ビニールなどで覆うとよい。



(a) 擁壁の場合

(b) のり面の場合

(c) 電柱の場合

(d) ガムテープの張りつかない石積みの場合
(クラック等の隙間に差込む)

図-4 判定ステッカーによる現地表示方法(例)

6.判定結果のとりまとめ

判定マー65

- ・判定票のチェック、図面の補足、写真の整理等



7. 判定調整員への報告

■判定票、写真、メモした被災状況図等により説明

- ・判定結果 ・被災の状況 ・周囲の状況
- ・今後予想される危険性(拡大の見込み、緊急度)
- ・応急処置の内容 ・住民の方への説明状況

判定マ - 65



ご静聴ありがとうございました

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会